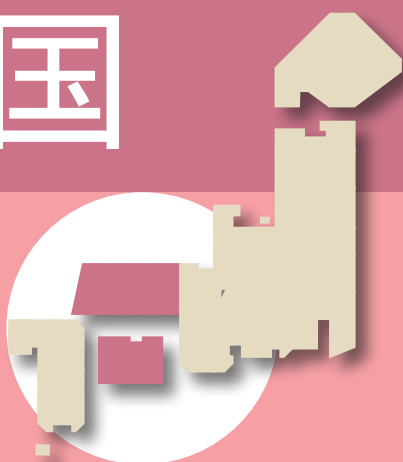


# 中国・四国



## 鳥取県

坂口美江さん



卓球

50

福島 覚さん



水泳

51

## 島根県

友村光男さん



水泳

52

松本京子さん



ペタンク

53

## 徳島県

森 弥生さん



マラソン

54

八木一夫さん



軟式野球

55

## 香川県

杉村範子さん



卓球

56

横山リウ子さん



ペタンク

57

## 広島市

山根繁徳さん



囲碁

58



## 卓球 「わかとり鳥取」チーム

さかぐち み え

坂口 美江 さん 65歳 ● 参加歴：2回目

## 試合も観光もののびのび楽しんだ「あきた大会」

ねんりんピックを初めて知ったのは、2年前の「やまぐち大会」予選の因伯シルバー大会。予選の部Aと予選外の部Bがあり、60才からラージ卓球を始めて3年目だった私は、当初、ねんりんピックなんてまだ無理と思い、Bの部に出るつもりでした。ところが、ある先輩に「勝たないと出場できないのだからダメ元で気軽に出てみたら？」と勧められチャレンジすることに。ふたを開けてみると、Aの部の申込みは3人で、全員予選通過。喜んだのも束の間、やまぐち大会は卓球チームが入場行進で鳥取県選手団の紹介をする番とのことで、何もわからない私がなぜかその紹介役に。入場行進を横目にマイクの前に立ち、大勢の選手・観客の前で鳥取県選手団の紹介をして、精神的に役目終了という感じでした。

2年後の今回、秋田市での総合開会式では、地元の小学生が各県の応援に来てくれたり、聖

火リレーに拍手をしたり、ゆっくり楽しめました。ただ9月の秋田はまだ暑く、半日以上を炎天下で過ごすのは、還暦過ぎの私たちには少々こたえましたが。

大会初日の第1次予選は3チームのリーグ戦。運良くオール70歳以上の関東G県チームに完勝し、四国K県チームに2勝2敗の後、最後のシングルス、我が鳥取チーム期待の星兼監督が1-1の後ファイナル、見せ場を作るもののセティングで残念ながら敗れてしまい、2位通過となりました。

翌日の第2次予選は、抽選で決まった3チームのリーグ戦。近畿N県チームに3勝2敗で勝ったものの、九州K県チームに0勝5敗で完敗でした。ねんりんピックで勝ちに来ているチームと、参加することに意義ありのチームの差でしょうか。でも我がチームは全員のびのびプレイでき、日頃の練習の成果は一応出せたのではと思っています。

予定通り（予想通り？）午前中で終了したので、午後から蔵の町・増田観光へ。翌日は生憎の雨ながら角館観光へ。朝、ホテルから横手駅に行くのになぜか反対方向へ歩き、近くにあった消防署の方に聞いて引き返したり、空港で乗り場に迷ったり、弥次さん喜多さんのような出会いとハプニングを経験しつつ、ねんりんピックのもう一つの楽しみ、観光をさせてもらいました。

歓迎していただいた秋田の皆様、引率していただき試合会場も回られた社協の皆様、そして一緒にチームを組んだメンバーの皆様、いい経験をさせていただき本当にありがとうございました。



日頃の練習の成果を発揮し、のびのびとプレイすることができた。  
(後列右から2人目)



## 水泳

自由形 25 m、自由形 50 m、  
混合メドレーリレー、混合フリーリレー

ふくしま さとる

福島 覚さん 80歳 ●参加歴：3回目

## とうとう獲得、夫婦そろって金・銀メダル

私たち夫婦の水泳歴は、およそ12年になります。健康に良いのではないかという軽い気持ちで始めたのですが、鳥取県の「マスターズ水泳大会」、さらには全国で開催される「ねんりんピック」に出場するという目標が加わると、少しでも早くカッコよく泳ぎたいという気持ちで練習に熱が入るようになりました。もし、健康管理だけが目的で大会参加という目標がなかったら、10年以上も続けてこられたかどうかわかりません。

「ねんりんピック」出場は、今回で妻が4回目、私が3回目となります。妻は、私と同様60歳を大幅に超えてから水泳を始めたのですが、毎回金メダルを獲得するという県内でもめずらしく華々しい結果であった一方、私はなかなかメダル獲得までには至りませんでした。しかし、今回のあきた大会では初めて夫婦そろって金銀獲

得という結果を得ることができ、たいへんうれしく思い出深い大会となりました。

もちろん、さまざまな大会への参加は、メダルだけが目的ではなく自分との戦いでもあると思います。日々の努力の成果が記録となって現れるので、反省にも励みにもなり、継続の原動力となっております。一方、結果だけに執着せず楽しむ気持ちで参加してみることも大切ではないかと思っています。特にこの「ねんりんピック」では、県を代表する入場行進や、何日も練習を重ねてこられたであろうオリンピックさながらの素晴らしいアトラクションの見物があり、選手気分を満喫できます。また、大会地の温かいおもてなしは、競技へのプレッシャーを和らげてくれます。今回少し残念だったのは、帰りの航空券の関係で観光ができなかったことです。早めに参加を決め、開催地周辺の観光もできれば、なお有意義な大会になることと思います。健康に気をつけて、今後も機会があれば、是非また夫婦そろってこの大会に出場したいと思っています。

最後になりましたが、社会福祉協議会の皆様やチームリーダーの行き届いたお世話により安心して行動できました。皆様の温かい心遣いに厚くお礼申し上げます。



五輪さながらの総合開会式をチームのメンバーとともに楽しんだ。  
(後列右端)



60歳を超えてから夫婦で始めた水泳。次の大会にも闘志を燃やす。



## 水泳 平泳ぎ 25 m、50 m

ともむらみつお

友村光男さん 66歳 ●参加歴：3回目

### 先輩の激励を胸に、2種目で優勝の快挙

感動、勇気、元気をもらった、ねんりんピックの総合開会式。アトラクションの竿燈まつりは、風の中で竿燈を、手のひら、額、肩、腰へと自在に操る姿に酔いしれながら、明日からの競技に向け、一段と気持ちが引き締まりました。

ねんりんピックには今回で3回目の出場となります。高校生から始めた水泳も50代の時に2度の病いで入院、手術をしてから、復帰は無理と自分で決めていました。しかし、定年後、たいへんお世話になった前田新維先輩から「また一緒に水泳やろうよ」とお声をかけていただき、大丈夫だろうか不安はありましたが、10年間のブランクを経て5年前から選手として復帰しました（現役時代とは体型が変わりましたが（笑））。

水泳交流大会に向けて、島根スイミングスクール江津のクラブで仲間と週3～4回、練習してきました。65歳～69歳の区分で平泳ぎ50mと25mに出場。今回のウォーミングアップは「スタートが遅い」と妻のアドバイスを受け、

スタートダッシュ（水深、浮き上がり）を繰り返し練習してレースに臨みました。

ねんりんピックの選手紹介は日本選手権に負けないくらいの演出で、入場するときの笑顔、恥ずかしさ、うれしさ、ドキドキ——こんな雰囲気味わえる水泳競技が私は好きです。結果は、50mを37秒95で泳ぎ優勝。2日目は、会場で同じユニフォームの姿を見て笑顔に。県の役員、石原さんたちが応援に来てくださっていたのです。表彰式の写真まで撮っていただき感謝、感謝でした。25mも17秒45で優勝。今回2種目優勝という嬉しい結果を残すことができたのは、声をかけてもらった先輩のおかげです。4年前に亡くなりましたが、「練習やらんと、勝てないよ」と、いつも励ましていただきました。島根県の水泳出場選手は1名のみで、リレー競技に参加できなくて残念でしたが、これからもこの経験を胸に泳ぎ続けたいと思います。

大会終了後、妻とレンタカーで男鹿温泉郷、秋田八幡平温泉郷、乳頭温泉郷、玉川温泉と温泉巡りをして、帰路に就きました。

秋田県の方々のおもてなし、また選手派遣に関わる事務局の方々のご配慮、応援に夫婦ともども感謝しております。

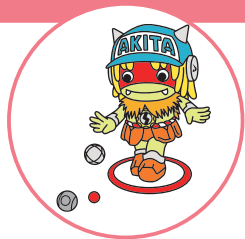


出場した2種目で見事優勝。表彰台では金メダルを掲げて満面の笑顔。



妻のアドバイスを受けて、スタートダッシュの練習を積み重ねた。（第4コース）





## ペタンク 「パインヒル」 チーム

まつもときょうこ

松本京子さん 61歳 ●参加歴：1回目

### チームメイトに支えられて初舞台で優勝

4年前に同じ職場の方から偶然ペタンク競技に誘われ、私も始めました。初めは、ペタンクなんて簡単とあなどっていたのですが、なかなか奥深い競技ですっかりのめり込みました。自分の身体をうまく使ってイメージ通りに投球することは滅多にできないのですが、できた時の爽快感はなんとも言えません。ペタンクは1チーム3名です。個人の技術だけでなく、地面、戦略で結果が大きく左右されます。週2回、頭と身体を使い、楽しい仲間と過ごす練習時間は、日頃のストレスを忘れられる有意義な時間です。

今年初めて、ねんりんピックの参加資格を満たしたので県予選に参加したところ、なぜか優勝してしまいました。まさか優勝？ 秋田？ 考えてもいなかったことでしたが、チームメイトで相談して全国大会の参加を決めました。初めての全国大会！ 盛大な開会式！ 圧倒され

て舞い上がって、だんだん不安になってきました。私が一番の初心者なので、足を引っ張ってはいけない、引っ張ったらどうしようと「悩みと緊張の渦」に迷い込んでしまったのです。そんな私を見て、ベテランのチームメイトや同宿になった県外チームの方から「あなたの今できることをしなさい。実力以上のことはできない」と助言され、心構えを教えていただき、私も納得して、落ち着きました。競技が開始されると、予選3試合、決勝4試合の7試合をあれよあれよという間に勝ち抜いて、まさかの優勝をしてしまいました。優勝なんて考えてもいなかったことで、本当にうれしかったです。私の実力と言いたいところですが、チームメイトの指示を聞いて、それに集中できたことで、普段以上の力を引き出してもらいました。

60代になってワクワクすることも減ったように思うのですが、「うまくなりたい」「がんばろう」「楽しい」という気持ちをペタンクが思い出させてくれます。老若男女、誰でもハンディなくできるのがペタンクの魅力です。この体験談

を読まれ、やってみようかなと思われた方、是非一緒にやりましょう。ご連絡お待ちしています。



初出場で見事優勝。表彰式では潟上市の藤原市長とともに記念撮影(右)



チームメイトと作戦を練りながら試合に挑む。



## マラソン 3km

もり やよい  
森 弥生さん 66歳 ●参加歴：2回目

## 生涯、現役ランナーを目指して走り続けたい

「ねんりんピック秋田2017」のマラソン交流大会3km（70歳未満女子の部）に出場しました。この大会は、やまぐち大会に続き2回目の参加となります。

徳島県庁で飯泉嘉門知事をはじめ多くの方々から激励の言葉をいただき、徳島県のユニフォーム姿でバスに乗り込み出発です。飛行機・新幹線を乗り継ぎ秋田県へ、最初の宿泊先の田沢湖畔のホテルに着いたのは夜でした。

翌日、総合開会式に参加するため秋田県立中央公園県営陸上競技場へバスで移動、式典はスムーズに行われました。秋田まごころKIDSの可愛いおもてなしや、お出迎えコーナーの秋田犬など歓迎ムードであふれていました。開会式終了後はマラソン会場の鹿角市へ再びバスで移動です。

大会当日は、天候があやしく予報どおりパラパラと雨が降り出しました。その後、雨は本降りとなり雷が鳴り始め、竜巻注意報まで発令されました。開催が危ぶまれ、担当者から開催されるかどうか検討中という説明を受けました。私の「晴れ女伝説」もこれまでのようです。ところが、バスが会場に近づくにつれて雨は小降りとなり、なんと最後には雨が止みました。竜巻の心配もなくなり、うす

日まで差してきました。「晴れ女」健在です。

さあ、いよいよスタートです。コースは坂道ばかりで「上っては下る」の繰り返しです。これが、ねんりんピックのコースかと思うほど厳しいものでした。私が2回目の坂道に苦戦していると、82歳のマラソン世界記録保持者、中野陽子さん（東京都）にスーッと抜かれました。ついて行こうとしましたが、彼女は私を置き去りにし風のように走り去りました。どんなことがあっても、徳島県のために入賞しなくてはいけないという思いで走っていました。ラスト350mで一人抜き、150mでもう一人抜いてゴールしました。結果は前回同様の5位でした。どうにか入賞できましたが、順位も記録も不満足なものでした。

ねんりんピック終了後、私は和歌山で開催された国際・第38回全日本マスターズ陸上競技

選手権大会に出場しました。今後こそはという気持ちで臨み、W65（65歳～69歳）のクラスで、400m優勝、200m3位という成績を残すことができました。ねんりんピックでの悔しさが、大きなバネになったようです。

これからも、多くの先輩ランナーたちを見習い、死ぬまで現役ランナーとして、走り続けたいものです。



5位で入賞するも結果に満足せず、後日マスターズ陸上で好成績を残した。



## 軟式野球 「国府球友クラブ」チーム

やぎ かずお  
八木一夫さん 70歳 ●参加歴：1回目

### 投手力とチームワークで優勝を勝ち取る

我がチーム「国府球友クラブ」は、秋田県北部・藤里町の清水岱公園野球場において、第1回戦で地元チーム「藤里クラブ」と対戦しました。アウェーの中、我がチームの特長である投手力とチームワークで勝利を取めることができました。試合後は、藤里町役場の方の案内で世界遺産・白神山地を散策し、明日の試合に向けて英気を養いました。その夜は、地元主催の交流会が開かれ、地域住民による駒踊りの熱演に大会参加の6チーム全員が感動しました。我がチームも有志による阿波踊りを披露し、大喝采を受けました。もちろん、スタチのPRも忘れません。

翌日の第2回戦の山形県チームとの対戦では、お互いに投手力が高いので接戦が予想されましたが、我がチームの8番打者（投手）の一撃で流れを引き寄せ圧勝し、決勝戦に進むことができました。試合後は、地元ボランティアの方々へのお礼に阿波踊り指導を行い、たいへん喜ば

れました。また、地元の女性による秋田民謡を聞かせていただき、交流が広がりました。

決勝戦では岡山県チームを破り、優勝の栄冠を勝ち取ることができました。監督はもとより、選手一同感激に浸りました。大会を通じて、地元関係者から受けた数々のご配慮、おもてなしをたいへんありがたく思いました。また、交流も深まり、思い出に残る大会となりました。

「国府球友クラブ」は、全国生涯野球大会や還暦交流大会などで優勝経験がありますが、新たに「ねんりんピック」の優勝という栄冠を重ねることができました。このことを今後の励みとし、監督はじめ選手一同、野球人として、さらにがんばりたいと思います。

最後になりましたが、参加の機会を与えてくださいましたとくしま“あい”ランド推進協議会並びに関係者の方々に、深く感謝しております。



優勝の栄誉とともに、地元の人たちとの交流も良い思い出に。(2列目右端)



持ち前の投手力が勝利を引き寄せた。





## 卓球 「うどん県さぬき」チーム

すぎむらのりこ

杉村 範子さん 63歳 ●参加歴：2回目

## 笑顔と感動いっぱいの「ねんりんピック」

卓球交流大会には香川県から6名が参加しました。秋田空港に到着した時から帰路に就くまで、さまざまな方との交流に笑顔が絶えませんでした。空港での歓迎やお食事処でのなまはげとの出会い、若者との讃岐弁と秋田弁でのやりとりも印象的でした。また、小学生が描いた讃岐うどんの絵ののぼりの前で写真を撮ろうとすると、地元の方が進んで声をかけてくれました。

翌日は、総合開会式があり、私は入場行進で香川県チームのアピールを担当し、「讃岐うどんのような粘りと腰で頑張ります」とアナウンスしました。それが交流大会で実現しました。

横手市での卓球交流大会（ラージボール）の団体戦の方式は、1番70才以上の女子・2番70才以上の男子・3番65才以上のミックスダブルス・4番60才以上の女子・5番60才以上の男子で、3試合取ったチームの勝ちです。

ぜひとも1位決勝トーナメントに進みたいと思っていましたが、試練は早くも1次予選に訪れました。2対2からの最終戦の勝負になり、3ゲームともデュースで最後に挽回して勝利し

ました。

そして、これに勝つと1位決勝トーナメントに出られるという2次予選のとき、興奮と感動の結果が待っていました。これも最終戦、1ゲームオールからの第3ゲーム2-8からの挽回劇です。あと3点取られたら負けというところから6点取り、8-8、8-10、10-10、12-10と粘り勝ちました。負けが頭によぎりながらも、「まだいける。頑張れ」と力の限り応援しました。最後の最後で挽回勝利したときは、みんな歓喜の涙を流しながら万歳をしました。あきらめないで粘り強くプレーすることの大切さをあらためて感じました。結果、決勝トーナメントに進出してベスト8になり、優秀賞をいただきました。

卓球交流大会での最年長参加者は95歳。80歳以上の方も20人以上いらっしゃいました。すばらしいと思いました。

帰ってから、自分の試合の動画を見たところ、連続してスマッシュを打ったとき、太りすぎのためか、肩で息をしていました。試合には勝ちましたが、これではいけないと反省しました。

私にとって卓球は生涯の友です。80歳を過ぎ

ても卓球を続けられるように、健康に気をつけ、仲間とともに笑顔で練習に励んでいます。



あきらめず、粘り強いプレーが勝利を呼び込んだ。



2次予選、挽回勝利の後で。全員で勝ち取ったベスト8。（前列右）





## ペタンク 「観音寺豊田りんどう」チーム

よこやま こ  
横山リウ子さん 71歳 ●参加歴：1回目

### ペタンクで、生き甲斐見つけ楽しい老後

2017年9月9日から、念願の「ねんりんピック秋田2017」が開幕しました。観音寺豊田ペタンク同好会は、男女合わせて50数名います。朝に夕にと日々練習に励んでいます。気の合う仲間同士で世間話に花を咲かせながらの練習です。これも、元気であることと家族の理解があればこそと感謝しております。

私たち「観音寺豊田りんどう」チーム3名は9月8日に出発しました。新幹線を乗り継ぎ秋田まで長い道のりでしたが、それぞれの種目メンバーの皆様とおしゃべりしながらの旅。秋田駅では、なまはげや地元の方々が旗を持って歓迎ムード一色でした。

そして、9月9日は総合開会式です。香川県担当の秋田まごころ KIDS から手書きの応援横断幕をプレゼントされ、いよいよ入場行進です。ねんりんピックとはいえ、自分の中ではオリンピックの祭典です。アトラクションの竿燈まつり、日本一の太鼓等々、初めて参加する私たちは感激で胸が躍りました。あの時の光景は忘

れることなく目に、心に焼きついています。

9月10日、潟上市のペタンク試合会場へバスで向かう道中、雲行きが怪しくなり心配していたのですが、案の定、バスを降りた時にはドシャブリ！ でも、試合開始時間まで30分くらいあったでしょうか……何と奇跡が起こり、徐々に雨が上がり晴れ間が広がってきました。グラウンドもよいコンディションとなりひと安心！ いよいよ試合開始です。

初戦は北九州市との対戦。相手にリードされ焦りましたが、心の中では、まだいけるまだいけると思っていました。その後は順調に勝ち進み、いいところまでいったのですが、残念ながら決勝トーナメントで神奈川県に負けてしまいました。それでも67チーム中8位で上位優秀賞のメダルを獲得。このような大きな大会に出られたことにメンバー全員も満足です。

会場では地元の方から飲み物や果物など心温まるおもてなしをしていただきました。ペタンク競技担当の地元スタッフの皆様、かがわ健康福祉機構長寿社会部の職員の方にも大変お世話になり、心からの感謝と御礼を申し上げます。生涯のいい思い出となりました。



チームで力を合わせてベスト8を手にした。(中央)



緊張の初戦。リードされるも無事に勝利。(右端)



## 囲碁

やまねしげのり

山根 繁徳さん 69歳 ●参加歴：1回目

### 囲碁は人生の友、若者にも魅力を普及したい

広島市の老人連合会の囲碁大会で準優勝したおかげで、思いがけず秋田でのねんりんピックに初出場する機会を得た。

秋田には新幹線を乗り継いで、1日がかかりでやっとたどり着いたが、開催地の県民総ぐるみの意欲的なもてなしぶりには感心した。2日目には、全体の開会式の後、部門ごとの開会式も開かれたのだが、その会場で、不注意にも座席に眼鏡を置き忘れたことに後から気がついた。翌日、別の囲碁の競技会場で、係の人に相談すると、快く電話で連絡を取り、探してわざわざ送り届けていただいた。自分で取りに伺うつもりでいたので恐縮した。

3日目の大会本番では、出だし良く順調に2勝した。ところが、最終日午前の1局を時間切れで落としてしまい、その後の昼食は喉を通らなかった。結局3勝1敗で優秀賞のメダルを獲得できたのは望外の喜びであった。他県の参加選手の中には、対戦相手に地元の名物をお土産として手渡

したり、一緒に記念写真に納まったりする人もいて、対局場の雰囲気は和やかであった。

囲碁のルールは高校時代に覚えたが、本格的にのめりこんだのは、教員になってからである。初任地の高校に有段者の打ち手がいて、宿直室で毎日指導を受けた。それ以来50年近く、囲碁は人生の友であり、切っても切れない強く深いつながりを持ち続けてきた。最後に勤務した女子高校でも、囲碁部を創設して全国大会に部員を引率した。今でも囲碁を続けてくれている元部員たちと碁会所で再会するのは、この上ない喜びである。退職後の今も、公民館や集会所で同好の老人たちと楽しく盤を囲んでいるが、若い人たちにもっと囲碁の楽しさを知ってほしいと思い、ボランティアとして小学生相手に普及活動もしている。囲碁が好きだった父親は、友人と碁を打って帰宅した晩に、心臓発作で急死したが、あやかりたいものだと思っている。



3勝1敗で優秀賞のメダルを獲得。対局場は和やかな雰囲気だった。



会場玄関前で広島市のチームメンバーと。(左)